

- Designations indicated by: ◎ Important Cultural Property, ○ Important Art Object
- Some artworks are on view only during the first half (4 Jun to 15 July) or the second half (17 July to 18 Aug) of the exhibition period.
- Works on display may change without prior notice.

List of Exhibits

No	Title	Artist(s)	Material	Country/Period	Size(cm)	Collection
1	Mandara showing views of Kasuga shrine and Kofuku-ji temple	Artist unknown	color on silk	Japan, 14th century	166.3×58.0	Matsunaga Collection
2	Hotei, god of fortune	Attributed to Hu Zhifu (13th century), Inscription by Yanxi Guangwen (1189-1263)	ink on paper	China, 13th century	70.7×29.3	Matsunaga Collection
3	First half Hotei, god of fortune, watching fighting roosters	Traditionally attributed to Liang Kai (12th -13th century)	ink on paper	China, 14th century	78.1×31.4	Matsunaga Collection
4	◎ Second half The fifth Zen patriarch	Traditionally attributed to Muxi (13th century), Inscription by Qiaoyin Wuyi (1262-after 1335)	ink on paper	China, 14th century	86.3×36.1	Matsunaga Collection
5	○ Idaten (Skanda) flanked by monkeys	Traditionally attributed to Muxi (13th century)	ink on silk	China, 13th century	99.2×42.8(center), 99.0×41.7(right and left)	Matsunaga Collection
6	○ Monju Bosatsu, bodhisattva of wisdom and intellect, riding on a lion's back	Artist unknown	color on silk	Japan, 14th century	70.7×36.9	Matsunaga Collection
7	Landscape	Attributed to Sesshu (1420-1506)	ink on paper	Japan, 16th century	38.0×86.0	Matsunaga Collection
8	One line of Chinese-style verse	SEKISHITSU Zenkyu (1294-1389)	ink on paper	Japan, 14th century	123.1×24.4	Matsunaga Collection
9	Record of the Imperial Tea Ceremony on the seventh of October 1585	SEN no Rikyu (1522-1591)	ink on paper	Japan, dated 1585	32.7×45.8	Matsunaga Collection
10	Du Zimei, famous Chinese poet	Traditionally attributed to Muxi (13th century), Inscription by Jianweng Jujing (13th century)	ink on paper	China, 13th century	89.3×31.1	Matsunaga Collection
11	Lotus pond	Attributed to TAWARAYA Sotatsu (?-?)	ink on paper	Japan, 17th century	105.9×40.8	Matsunaga Collection
12	◎ First half Letter to Shutong Jiaoshou	Daoqian(?-1106?)	ink on paper	China, 11th -12th century	28.4×47.6	Matsunaga Collection
13	○ Second half Segment of the record of dreams	Myoe(1173-1232)	ink on paper	Japan, dated 1206	33.0×58.7	Matsunaga Collection
14	Calligraphy on enjoyment	Sengai Gibon (1750-1837)	ink on paper	Japan, dated 1834	28.8×48.6	Konishi Collection

表具のキホン

The Basics of *Hyōgu*: Traditional Mounting of Japanese Paintings

会期 2024年6月4日|火|-8月18日|日|

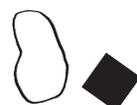
会場 松永記念館室



出品No.1《春日社寺曼羅図》

鑑賞や保存のために、書や絵画を紙や裂地等きれじを使って掛軸や巻物、屏風などに仕立てること、またそのように表装した部分を「表具」あるいは「表装」と呼びます。本展では、鑑賞の際に表具が大きな役割を果たす掛軸に焦点を当て、松永コレクションの名品を中心にしてその基本についてご紹介します。

(学芸課 太田早耶)



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051 (代表) FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

まずは作品を見る前に、掛軸の表具の主要部分を確認してみましょう。掛軸の表具は格に応じてその形式が異なりますが、ここでは一般的な形式を例にとります。まず作品本体、つまり絵や文字が描かれた部分は「本紙」と呼ばれます。通常、鑑賞の主役はこの本紙であり、一方、本紙を取り囲む表具はいわば脇役的な存在です。表具はいくつかの部分から成り立ちます。本紙の上下を囲む細長い部分は「一文字」と呼ばれ、表具の中でも目立つポイントです。本紙に最も近く、多くの場合、他の部分より格の高い裂が使われます。次に、本紙と一文字を囲む部分は「中廻し」と呼ばれ、本紙を引き立て、表具の印象を決定する重要な存在と言えます。中廻しの上下にある最も外側の部分は「上下」あるいは「天地」と呼ばれます。掛軸の表具において広い面積を占め、作品を緩やかにまとめあげる存在です。上下の「上」部分に垂れ下がる二本の帯は「風帯」と呼ばれ、通常、一文字と同じ裂が使われます。

表具の成り立ち

基本を押さえたところで、実際に掛軸の表具を見てみましょう。もともと掛軸は、神聖なものの礼拝のために絵や文字を描いた布を吊り下げたものが、次第に姿を変えていって成立したと考えられています。中世の日本では、裂を使った表具のほか、本紙と表具全体を絵筆で表す描表装の仏画が盛んに製作されました。描表装では、掛軸の表具のデザインを踏襲しつつも、本紙と一体となるような華麗な装飾が目指されました。《春日社寺曼荼羅図》(作品1)では、本紙の上部に春日社の社殿、下部には興福寺の諸尊が配され、その周りには、金や赤、緑など鮮やかな色彩で表具部分が描かれています。その形式は上下と中廻しから構成され、掛軸の表具のデザインに倣っていることが分かります。

鎌倉時代から南北朝時代にかけての時期に裂を貼り付ける表具が確立し、室町時代には、全体に金襴などのきらびやかな裂を使用した表具が定着していきます。その背景となったのが、海外からもたらされた文物である「唐物」(作品2~4)の流行でした。とりわけ足利将軍家は、中国との交易を掌握することで唐物の最高級品を独占しました。そのコレクションは「東山御物」と呼ばれ、多くが貴重な裂を用いた贅沢な表具で仕立てられたため、このような豪華な表装はしばしば「東山表装」と呼ばれます。表具に金を用いることで、富と権力を誇示したり、貴重な文物を厳かに飾り立てたいという意図があったと思われます。

これらの唐物は多くの場合、邸宅の座敷飾りで使用されました。室町時代には、大きな床の間に合わせた「三幅対」という、三幅を一セットとする掛軸の形式が生まれます。伝・牧谿筆《韋駄天・猿猴図》(作品5)はその一例で、中央幅の中廻しと左右幅の一文字

及び風帯にはよく似た裂が使われています。なお、中央幅とバランスをとるために、左右幅の上下に絹が継ぎ足されていることから、三幅対に仕立てられたのは後のことと考えられます。また中央幅と左右幅の表具はそれぞれ異なる形式で仕立てられており、格が区別されています。

形式の確立—真・行・草—

表具の形式は室町時代に整えられ、江戸時代には現代につながる表具の規範が確立しました。掛軸の表具の形式は、大きく「裱褙」、「幢褙」、「輪褙」の三つに分類されます。これらはそれぞれ、書の書体で言う「真・行・草」に対応します。最も格式が高い真の形式では、上下と中廻しが本紙をぐるりと取り囲みます。仏画や三幅対の中央幅に用いられ、作品5の中央幅もこの形式です。また《文殊菩薩騎獅像》(作品6)は室町時代以前に描かれた仏画ですが、その表具は上記の分類に従い、真の形式で仕立てられています。それに次ぐ形式である行は、上下と中廻しが三段に並ぶことから、「三段表具」とも呼ばれます。鑑賞用の書画、禅僧の書である墨蹟、歌切などに広く用いられ、作品5の左右幅のほか、伝・雪舟(1420-1506)筆《山水図》(作品7)や《一行書》(作品8)の表具がこの形式です。さらに軽みを増した形式である草は、本紙の左右部分の表具がかなり細いのが特徴で、墨蹟、茶人の書や絵画などに用いられます。ここでは千利休(1522-1591)による《禁中御茶会記》(作品9)や、宋から元時代に活躍した僧侶画家の牧谿が絵を描き、中国の禅僧、簡翁居敬が賛を書いたとされる《杜子美図》(作品10)の表具にその形式を見ることができます。

取り合わせの楽しみ

また、表具と本紙の取り合わせを通して、様々に想像を巡らせてみるのも楽しいものです。例えば《蓮池図》(作品11)は、柔らかなタッチで蓮を描いた作品です。表具を見てみると、中廻しには濃い緑色の裂を、上下には浅葱色の裂を使用しています。濃い色の中廻しで全体を引き締めつつ、上下には池の水面を思わせる淡い色を用いており、本紙の趣を豊かに醸し出します。蓮が咲く池のしっとりとした雰囲気は伝わるような、絶妙な取り合わせではないでしょうか。その他にも、本紙の作者の人柄を偲ばせるような表具や、一風変わった個性的な表具など、本紙との取り合わせに思いを馳せてみると、作品がよりいっそう味わい深く感じられるかもしれません。

表具は本紙を守り、飾り、鑑賞する際には作品全体の印象にも関わる重要な存在です。普段はあまり注目することがないかもしれませんが、本展ではぜひ、本紙を彩るこの名脇役に目を向けてみてください。

出品作品リスト

No	作品名	作者名	品質	時代	法量(cm)	コレクション
1	春日社寺曼荼羅図		絹本着色	南北朝時代 14世紀	縦166.3 横58.0	松永コレクション
2	布袋図	伝・胡直夫(13世紀)、 偃谿広聞 (1189-1263)賛	紙本墨画	南宋時代 13世紀	縦70.7 横29.3	松永コレクション
3	前期 鶏骨図	伝・梁楷(12-13世紀)	紙本墨画	元時代 14世紀	縦78.1 横31.4	松永コレクション
4	◎ 後期 五祖荷鋤図	伝・牧谿(13世紀)、 樵隱悟逸(1262-1335 以降)賛	紙本墨画	元時代 14世紀	縦86.3 横36.1	松永コレクション
5	○ 韋駄天・猿猴図	伝・牧谿(13世紀)	絹本墨画	南宋時代 13世紀	縦99.2 横42.8(中幅) 縦99.0 横41.7(左右幅)	松永コレクション
6	○ 文殊菩薩騎獅像		絹本着色	鎌倉時代 14世紀	縦70.7 横36.9	松永コレクション
7	山水図	伝・雪舟(1420-1506)	紙本墨画	室町時代 16世紀	縦38.0 横86.0	松永コレクション
8	一行書	石室善玖 (1294-1389)	紙本墨書	南北朝時代 14世紀	縦123.1 横24.4	松永コレクション
9	禁中御茶会記	千利休(1522-1591)	紙本墨書	桃山時代 天生13年(1585)	縦32.7 横45.8	松永コレクション
10	杜子美図	伝・牧谿(13世紀)、 簡翁居敬(13世紀)賛	紙本墨画	南宋時代 13世紀	縦89.3 横31.1	松永コレクション
11	蓮池図	伝・俵屋宗達 (生没年不詳)	紙本墨画	江戸時代 17世紀	縦105.9 横40.8	松永コレクション
12	◎ 前期 書状	道潜(?-1106?)	紙本墨書	北宋時代 11-12世紀	縦28.4 横47.6	松永コレクション
13	○ 後期 夢記切	明恵(1173-1232)	紙本墨書	鎌倉時代 建永元年(1206)	縦33.0 横58.7	松永コレクション
14	楽只の書	仙厓義梵 (1750-1837)	紙本墨書	江戸時代 天保5年(1834)	縦28.8 横48.6	小西コレクション

- ・◎は重要文化財、○は重要美術品を示します。
- ・「前期」の記載がある作品は6月4日(火)~7月15日(月・祝)、「後期」の記載がある作品は7月17日(水)~8月18日(日)の展示です。
- ・都合により展示作品を変更する場合があります。